



ふきのとう 文庫だより

昭和48年1月13日第三種郵便物承認

HSK通巻番号564号

発行 平成31年3月10日

毎月10日発行 一部100円

編集 〒060-0006

札幌市中央区北6条西12丁目8番3

公益財団法人ふきのとう文庫

電話 (011) 222-4839

FAX (011) 222-4800

発行人 北海道障害者団体定期刊行物協会

細川久美子

ふきのとう文庫移転五周年を迎えて

ふきのとう文庫 理事 宝 本 博 雄

七、八年前になると思いますが、高倉理事長（宝本の父の親類）からふきのとう文庫を手伝ってもらえまいかという話がありました。しかし、話があるまでボランティアには縁がなく「ふきのとう文庫」がどういう活動をしているのかも知りませんでした。

高倉理事長とは親類でもあり、高倉家の親も亡くなり広大な敷地が残されました。その土地を寄付して西区平和の滝の入り口にある「ふきのとう文庫」を中央区の高倉家の敷地に移転するという計画を聞かされた時には本当にびっくり、跡を継ぐ妻や子どももいるのに……と信じられない事でした。

今時、こんな人がいるのか、あの原始林のような庭といい、大きな大きな栗の木、そして池など幼いころ、札幌の中央区にある高倉家を自慢にしておりました。そこに営利を考えず子どもたちの図書館を建てるという発想に少なからず共感し、協力させてもらう事になりました。

平和の滝時代の「ふきのとう文庫」には、三、四回訪問しました。春、夏は素晴らしい場所です。ただ市内からは交通の便が悪く遠かった思いがあります。子どもたちが出かけていくには不便でした。

移転新築ということで、設計や資金（すべて寄付金）の面においても高倉理事長が大変苦勞していたのですが、林野庁からの補助金、支援される皆様の協力など

大変立派な「ふきのとう文庫」が中央区に完成しました。私も主に実業面で、いろいろ支援させていただきました。

子どもたちの夢がふくらむ画期的な事業かと、高倉理事長には敬意以外の何ものでもありません。よく決断してくれたと今でも思っています。

ボランティアの方々のおかげで、子ども図書館での活動、布の本、拡大写本の制作、日々の運営、催し物など明るい「ふきのとう文庫」として機能しています。布の本は世界に誇れる精度の高いものです。拡大写本も目に障がいを持つ子どもたちの本を読む喜びに役立っています。

高倉理事長以下、たくさんの方々のみなさんの活動が続いています。資金面で多々苦勞しているところもあります。どうぞ皆さま、賛助会員として安定運営をさせていただきます。これからのいろいろな面で応援していきますが、中央区に移転してくれたことに感謝しながら関わっていかうと思っています。

プロフィール

一九四六年 室蘭市生れ 酪農学園大学卒業後、
(株)クワザワ工業入社。独立して現在、札幌で(株)ホ
ウセイガラス工業社長

平成三十一年度の事業及び収支計画について

平成三十一年度事業計画

一、事業活動については、例年のことですが殆んど前期の活動を踏襲してまして、本年度も改めて加えたものとしては、布の本製作事業での『布の本購入先からの依頼による修理・修復対応』の顧客への利便を考慮したものです。とにかく前年度を上回る内容で今年度の事業を推進してまいります。

二、収支計画については、年々増加するランニングコストに対応すべく、賛助会員の増員、寄付金のより多くの獲得及び確定的助成金の他に単発的助成金の獲得をめざし、他方では布の本関連の売り上げ増大に力を注いでまいります。

平成31年度予算（平成30年度予算併記）

単位 千円

	31年度	30年度
賛助会費	2,600	2,600
寄付金（新規助成金を含む）	3,200	3,000
既存助成金	1,500	1,650
事業収入	2,390	2,210
雑収入	10	10
収入合計	9,700	9,470
管理費	6,200	5,930
事業費	3,500	3,540
支出合計	9,700	9,470
収支差益	0	0

一、子ども図書館の運営

- ① 子ども図書館の整備と貸出し
- ② 病院文庫の拡充検討
- ③ 貸出し本の未返却防止作業継続
- ④ 子どもたちとの交流を大事に

二、布の本の製作

- ① 貸出し用・販売用の布の本・遊具の製作
- ② 布の本・遊具の材料セットの製作
- ③ 既存布の本の修理
- ④ 病院内の図書コーナーへの貸出し・寄贈
- ⑤ 布の本購入先からの依頼による修理・修復

三、拡大写本の製作

- ① 拡大写本の製作と貸出し
- ② 弱視児童への拡大漢字本製作及び寄贈
- ③ 拡大図書の視覚支援校への配本

四、子ども催事事業

別紙日程表

五、布の本・拡大写本等の普及活動

- ① 製作講習会の開催（布の本のみ）
- ② ふきのとう文庫ホームページの活用
- ③ ふきのとう文庫パンフレットの作成活用
- ④ 多目的室での展示会の開催

六、ボランティア研修

- ① 現地施設等への実態見学

七、機関誌の発行

- ① ふきのとう文庫だよりの発行（年三回）

七月・十一月・三月

八、賛助会員の拡充

- ① 賛助会員の拡大募集
（機関誌・展示会・イベント・来館者）
- ② 賛助会員拡大のための協力依頼
（現、賛助会員）

九、年間ふきのとう文庫利用者目標人数

- ① 一五、〇〇〇人を目標とするが、次年度からは人数に拘らず、内容の充実に心がける。





布の本・拡大写本展示会 二月二十四日～二十七日

移転五周年記念の展示会「ふきのとう文庫であそぼう！」が二月二十四日～二十七日の四日間で行われました。二〇〇人にもおよぶ親子が、普段遊ぶことのできない布の本や布のおもちゃで楽しい時間を過ごしました。三日間はボランティアによるエプロンシアター「サンドイッチ」「三匹のこぶた」「ブレーメンの音楽隊」が行われました。ほかのイベントとしては、布のケーキの台座に素敵にデコレーションしてオリジナルケーキを作りました。とっても美味しそうなくだものやマカロンなどのお菓子や動物がたくさん揃っています。子ども達は時間をかけてデコレーションしました。



大きな字の本に興味深く見てもらえました。拡大写本は児童書を中心に作っています。できあがった本は、弱視教室や盲学校、特別支援学校などに配本しています。そういったことを少しでも多くの人に知ってもらえる展示会でした。

新しい拡大写本できました

- 森のお店屋さん 林原 玉枝 作
- 森はだれがつくったのだろう？ ウィリアム・ジャスパソン 作
- マイケルとスーザンは一年生 ドロシー・マリノ 作
- わかったさんのクッキー 寺村 輝夫 作
- ぼく先生のことがきらいです (全2冊) 宮川 ひろ 作
- きかんぼ 今村 葦子 作
- こおりづけのマンモス (全2冊) たかし よいち 作
- わすれものの森 (全2冊) 岡田 淳+浦川 良治 作
- 100年目のハッピーバースデー (全2冊) 石田 ゆうこ 作
- ドラえもん プラス1 (全2冊)
プラス2 (全2冊) 藤子・F・不二雄 作
- 千と千尋の神隠し (全2冊) 宮崎 駿 作
- この世界の片隅に (全3冊) こうの 史代 作

子どものためのもよおし

予定表

2019 年度下半期

- 10月6日(日)13時30分～「小学生のためのかたりの会」
- 14日(月)13時30分～「うたう会」
- 20日(日)13時30分～「おはなし会」
- 11月3日(日)13時30分～「うたう会」
- 10日(日)～13日(水)「木育ひろば」
- 17日(日)13時30分～「おはなし会」
- 24日(日)13時30分～「手づくりあそび」
- 12月1日(日)13時30分～「うたう会」
- 15日(日)13時30分～「おはなし会」
- 22日(日)11時～11時30分「クリスマス会」
- 1月12日(日)13時30分～「うたう会」
- 19日(日)13時30分～「おはなし会」
- 26日(日)13時30分～「小学生のためのかたりの会」
- 2月9日(日)13時30分～「うたう会」
- 16日(日)13時30分～「おはなし会」
- 23日(日)13時30分～「手づくりあそび」
- 3月8日(日)13時30分～「うたう会」
- 15日(日)13時30分～「おはなし会」
- 22日(日)～25日(水)「布の本・拡大写本展示会」
- 29日(日)13時30分～「手づくりあそび」



ふきのとう子ども図書館 TEL 222-4839

子どものためのもよおし

予定表

2019 年度上半期

- 4月7日(日)13時30分～「小学生のためのかたりの会」
- 14日(日)13時30分～「うたう会」
- 21日(日)13時30分～「おはなし会」
- 5月12日(日)13時30分～「うたう会」
- 19日(日)13時30分～「おはなし会」
- 6月9日(日)13時30分～「うたう会」
- 16日(日)13時30分～「おはなし会」
- 23日(日)13時30分～「医学生アンサンブル」
- 30日(日)10時～16時「世界の楽器展」
- 7月7日(日)13時30分～「小学生のためのかたりの会」
- 14日(日)13時30分～「うたう会」
- 21日(日)13時30分～「おはなし会」
- 28日(日)13時～15時「人形劇」
- 8月4日(日)13時30分～「うたう会」
- 18日(日)13時30分～「おはなし会」
- 25日(日)13時30分～「手づくりあそび」
- 9月15日(日)13時30分～「おはなし会」
- 16日(月)13時30分～「うたう会」
- 29日(日)13時30分～「手づくりあそび」



ふきのとう子ども図書館 TEL 222-4839



ふきのとう文庫のあゆみ

第一回

ふきのとう文庫は前理事長の故小林静江さんが自宅で始めた子ども文庫から、五十年が経とうとしています。今回から三回にわたり文庫の歴史をたどっていきましょう。

一 身障児専用の子どもの文庫

一九七〇年、前年に夫の転勤で江別市大麻に引っ越してきた小林は東京時代と同じく自宅を開放して子ども文庫を開いていたが、翌年、脊椎（せきつい）カリエスで寝たきりだった妹が重態に陥り亡くなった。二十五年もの間寝たきりだった妹だが、ベッドの上で点字を習って点訳奉仕をしようとしたり、浄書などのアルバイトをしてその収入を日本点字図書館や障がい幼児の通園施設などに寄付したり、つねに自分と同じ立場の人たちとのつながりを重んじていた。そんな妹の生と死をあらためて思い返しながら、様々な障がい児支援の方法を考えていた小林だが、いずれも資力、体力のいる仕事であり自分の身に余るものと思えた。

小林は長年東京で本の編集にたずさわってきたことや、北海道に来てからも大学で本に係わる講



義をしていたこと、自宅で子ども文庫をしていてかなりの蔵書があることなどから、自分にあふましい支援の方法を考え出

した。それは、なんらかの障がいを持つため就学猶予、就学免除になつて義務教育から遠ざけられた子どもたちや辺地の寝たきりの子どもたちに本を郵送で貸し出すということであった。当時の北海道は図書館空白地帯が多いばかりか、半年は雪に閉ざされる期間が長い。そこでまずは自宅を身障児専用の子どもの文庫に切り替えることを決意した。

二 郵送貸し出し等の試み・郵便料値上げ、図書館の身障者サービス状況の調査

自宅での身障児専用の子どもの文庫とともに、在宅身障児を訪問して本を持参すること、あるいは郵送での貸し出しをしようと行政・各種団体に打診したが、なかなかいい回答は返ってこなかった。在宅療養の子どもにも本を届けることの難しさを知った。しかたがないので、新聞に投書して、直接郵送費を負担しても貸し出ししようとしたが、その後には郵送料金の値上げになるとの報道があり、個人の限界を超えると知った。

そこで、国内外の図書館の身障者サービスや郵便法規などを調べ、図書館に対して障がい者への家庭配本を求める運動も始めた。

三 病院内ふきのとう文庫開設

一九七三年、小林は小樽へ転居した。新しい土地で心も新たにもう一度努力しようと市役所福祉課を訪れ、在宅療養の子どもたちに対する巡回相

談で本利用の働きかけをしてもらうことにした。しかし、期待通りにことは運ばなかった。そこで今度は、病院文庫で受け入れてくれるところを探して奔走した。

入院中の子どもたちは屋外で遊ぶことがままならず、室内で病との戦いを余儀なくされている。そんな子どもたちに成長をたすけ、慰めるために本本の役割は大きいと思った。そんな中、一九七三年十一月に小樽市立病院が受け入れてくれることになり、小児科プレイルームにふきのとう文庫第一号が開設された。今から四十七年前のことである。

寒い冬に耐えて雪の下から春一番に芽をふく「ふきのとう」を思い、また子どもたちへの励ましも込め「ふきのとう文庫」としたのは、この時からである。それ以来、道内にとどまらず、日本全国の病院・施設内「ふきのとう文庫」は三十カ所を超える広がりを見せた。

四 布の絵本

小樽市立病院のふきのとう文庫で貸し出しをしていた頃、全盲の二歳児の母親から、「うちの子は、耳は聞こえるから何か読んでやりたい」との相談を受けた際、何冊かの絵本を選んだが、東京の点字奉仕グループが作った「さわる絵本」も用意した。「さわる絵本」とは、絵本を原本として、台紙に絵の部分の布・紙・ビーズなどで半立体的貼り絵にしたものであった。これは弱視の子どもたちは喜ぶが、全盲の子どもには研究の余地があるという報告もあった。

小樽で使ってみてもなかなか楽しんでもらえな

かった。また、他の機会に、脳性小児麻痺の五歳の子どもを持つ親から、「なかなかうちの子どもにあった本がない。自分で作ろうと思うが時間がない」という相談を受けた。そういったことから障がいを持つため市販の絵本が適当でない子どもたちのための本作りを日夜考え、資料を集めた。一九七五年の「ふきのとう文庫だより」第三号（一月発行）にそのことを書き、障がい児の読書や絵本づくりの研究と図書館の障がい者サービスを実現するため「障がいをもつ子どもと本の会」を作りたい旨の記事を載せた。

ちなみに「ふきのとう文庫だより」は一九七四年にガリ版印刷で第一号が発行された。内容としては、巻頭言で文庫のおりおりの様子や願いなどをテーマにし、活動状況やおたより、協力者の芳名などを載せていた。年に数回の発行で、今回で一一七号となっている。

「障がいをもつ子どもと本の会」は一九七五年に設立され、様々な分野から人が集まり、同年二回目の例会では、アメリカの主婦がつくった「布の絵本」BUSY BOOK^①が紹介された。それは天竺木綿の台布に、フェルトで三角形のテントがアップリケされて、ファスナーで開閉できるなど、カラフルで楽しい工夫がある手作りの本だった。

この会では、自閉症児の音楽療法の試みとか、「ろう児と読書」や「弱視児と読書」などについての研究学習も行っていたが、しだいに「布の絵本」の調査研究にウエートがおかれるようになり、一九七五年から早くも自作の作品が多く作られていく。翌一九七六年には、新聞、テレビで取り上

げられ、札幌市のボランティアコーナーで開かれた「布でつくる絵本研修会」の講師をふきのとう文庫が担当し、布の絵本製作の広がりになりだすこととなった。

五 拡大写本の作成

読書の楽しみから遠ざけられている子どもたちの中に、弱視児と呼ばれる子どもたちがいる。めがねなどで矯正しても〇・三以下の視力しかない子どもたちである。この子どもたちのための拡大写本づくりは一九八二年からはじめた。

一九七四年に創成小学校訪問学級に児童書や絵本を貸し出したとき、弱視学級も見学させてもらい、弱視児のための本作りもやっていきたいと研究をしたがなかなか実現しなかった。一九八一年に日本点字図書館の本間先生が小樽で講演したとき、かねてから布の絵本や絵本に点字を打って貼り付けた本の試作品を見ていただいて先生に助言をいただいていたが、「小林さん、拡大写本を作ってくださいよ」と言われたことで、伸ばし伸ばしになっていった拡大写本作りの思いに火がついた。そして、翌年にはそれが少しずつ実現して現在に至っている。

選書には当時は札幌市立創成小学校弱視教室の



子どもたちと対面して希望を聞いたり、弱視者問題研究会の母親たちからの要望だったり、さらには当文庫で人気の高い本を選んでいったが、その後、教科書に取り上げられた本や各種の指定図書からも選んでいる。

作成は複数冊を作り、当文庫での貸し出し用、保存用のほか、市内の弱視教室、盲学校へも配布している。

六 ふきのとう子ども図書館

小林は障がい児の読書ボランティアを志したときから、小さくてもいいから障がい児の利用を主とした図書館をいつの日か建設したいと思っていた。床にはカーペットを敷き、冬は床暖房を入れ、ワゴンに本を入れて運び、障がい児が寝たままでも本を選んだり、読んだり出来るような施設を考えていた。また、障がい児と健常児の交流の場にしたい、「子どもの城」にしたいと夢をふくらませていた。

しかし、現実はいきびしく、ふきのとう文庫の事務所ですら市内を転々としていた。最初は小林宅が事務所であった。その後、札幌教会内明星館、民間ビルへと移っていった。その間、活動がひろがり、ボランティアも急速に増えて、病院文庫などに配布する本の収納や布の絵本づくりの材料、製作品の置き場にさえ困るようになっていった。また、布の絵本の製作場所やそれを展示するところ、ボランティアの話し合える部屋の必要性も高まってきた。そうやって、みんなの期待は膨らんできたが、さて、その土地や建設財源などはどうするのか。

（次回へ）

書棚より

雪が解け、日差しにも暖かさを感じるようになりしました。

春は、新しい出会いや別れの季節であり、また、雪が解け土が見え出すわくわくと心騒ぐ季節でもあります。

そんな季節にちよつとだけ立ち止まってじっくりと見ることに、考えることが楽しくなるような二冊を紹介します。

長新太 「ふゆめがっしょうだん」

長新太さんは、カラフルな色使い、とぼけたような表情、そしてちよつと不思議でユーモラスな世界観でナンセンスの神様という異名をもつ絵本作家です。



冬の公園や雑木林で花も葉もおちた枝先に春をじつと待つ冬芽たち。じっくりとあらあら不思議、誰かさんの顔にそっくり。その冬芽たちが集合し何か歌を唄っているのです。

—みんなは みんなは きのめだよ

はるになれば はがでて はながさく

パッ パッ パッ パッ—

すぐそばの自然の中に、こんな面白可笑しいことがあったのです。ただ、ボーっと生きていてはもったいないですね。まだ、まだ間に合いません。さあ、虫めがねを持って冬芽探しにでかけてみましょう。絵を描いてもきつと楽しいですよ。

長田弘(文) いせひでこ(絵) 「最初の質問」

物事の本質を柔らかな言葉で紡いだ詩人の長田弘さんと宮沢賢治やゴッホの研究、スケッ

チ旅の出会いや実感から絵本やエッセイを発表し続けている画家、絵本作家のいせひでこのコラボ絵本です。

—今日のあなたは空を見上げましたか

空は遠かったですか 近かったですか—

つばめと譜面台が描かれた淡い水色のページから始まります。柔らかな言葉でゆっくりゆっくりと語りかけられるように問いかけが続きます。

毎日の暮らしの中で、つい忙しいことを理由に見つけようとしなかったことや忘れかけていたことを思い出させてくれる問いかけに、はつとしたり考えてしまったり……。詩人の言葉とのびやかな美しい絵が互いに響き合いぐつと引き込まれてしまいます。

少しだけ一息つける時間が取れたら、ゆっくりと、ゆつたりとページをめくって欲しい大人のための一冊です。

絵本は、読む人の心を豊かにしてくれますが、決して子どもだけのものではありません。今、子育て真っ最中のお父さんお母さんだけでなく、人生経験豊富なシニア世代の人たちにも、当館に足を運んでほしいと思います。そして、大きな窓から注ぐ光の中で、子どもたちの話し声を聞きながらお気に入りの一冊を見つけたらいいですね。

平成30年11月以降 賛助会費納入一覧

阿部 京子	安藤 淑子	石井 紀子	植竹 俊光
蛸田 佑一	奥山 慶一	小野 祐子	金澤 宏和
鎌田 勇一	北川 恭三	君島 道明	小竹美智子
小山 忠弘	榎原 郁子	桜庭 英明	佐々木順子
佐々木扶美子	佐々木雅夫	シェンツ・ダニエル	
高倉実枝子	宝本 英明	宝本 博雄	宝本 昌紀
宝本 陽子	永井 信夫	長岡 臣子	仲宗根祥子
中野 満夫	中村ゆかり	沼田 維雄	濱崎 京子
福田 都代	古川 順子	星野 フサ	細山 公子
松尾 恵	松岡 享子	三澤 信也	村松 晶子
森永美恵子	森永美恵子	山崎生久男	吉田布美恵
えぞりすクラブ			

北26条教会B地区有志

平成30年11月以降 寄付金納入者一覧

青山 誠	青山 千春	飯村 俊幸	小間海多喜子
佐々木扶美子	高倉 嗣昌	高野 葵	武次 徹也
橋本 孝幸	藤沢 薫		
(株) 借成社			
桜蔭学園生徒会			
生活クラブ生活協同組合			
全国PHP友の会・PHP思いやり運動			
ペリシア 小山内恵			
ふたご座 畠山珠恵			
ラウンジ「わ」・渡辺俊子			

平成30年11月以降 寄贈一覧

11月9日 童心社	絵本	1冊
11月19日 図書館ネットワークサービス	絵本	10冊
11月20日 小坂 悟	毛糸	24冊
11月27日 太田 光枝	書籍	1冊
12月4日 小坂 悟	毛糸	多数
12月5日 原 哲夫	書籍	1冊
12月16日 前川 茂	絵本	1冊
12月19日 北海道獣医師会	C D	1枚
12月19日 童心社	冊子	2冊
1月6日 札幌市立桑園小学校	絵本	2冊
	開校90周年記念誌	

賛助費、寄附、寄贈ご芳名

ご支援ありがとうございました。

平成30年11月以降 行事一覧

11月4日 第10回 うたう会	田中 隆子	切手多数
11月11日 14日 木育ひろば	1月16日 学研	児童書 1冊
11月18日 第10回 おはなし会	1月25日 童心社	絵本 1冊
11月19日 図書係ミーティング	1月28日 クマヒラ	冊子 2冊
11月23日 (生活クラブ「ほっとたいむ」)	1月30日 挽上勇太郎	節分用大豆
11月28日 手づくりあそび	2月1日 学研	児童書 1冊
12月2日 第11回 うたう会	2月15日 井村 晴美	児童書 1冊
12月7日 (生活クラブ「ほっとたいむ」)	2月22日 童心社	絵本 3冊
12月16日 第11回 おはなし会	2月28日 学研	絵本 1冊
12月23日 クリスマス会	寺尾 直子	絵本 1冊
12月27日 1月5日 年末年始休館		児童書 1冊
1月14日 第12回 うたう会		絵本 1冊
1月18日 (生活クラブ「ほっとたいむ」)		絵本 1冊
1月20日 第12回 おはなし会		絵本 1冊
1月22日 運営会議		絵本 1冊
1月27日 小学生のための語りの会		絵本 1冊
2月1日 (生活クラブ「ほっとたいむ」)		絵本 1冊
2月9日 旭川短期大学・札幌国際大学		絵本 1冊
2月10日 手づくりあそび		絵本 1冊
2月11日 第13回 うたう会		絵本 1冊
2月12日 運営会議		絵本 1冊
2月15日 (生活クラブ「ほっとたいむ」)		絵本 1冊
2月17日 第13回 おはなし会		絵本 1冊
2月19日 札幌国際大学 学生3名 見学		絵本 1冊
2月24日 27日 布の本・拡大写本展示会		絵本 1冊

◆図書ボランティアの増強

ボラナビ二月号(ボランティア募集などのマツチングをしているNPOの広報誌)に図書ボランティアの募集をしたところ、多くの方から問い合わせがあり、数十名が見学していただきました。日曜から水曜まで、それぞれの曜日にボランティアが来ているわけですが、みんな自分の空いた時間をやりくりして対応しているため、人手不足もありません。

今まで試行だった図書館の開館時間が二〇一九年四月から、正式に午前九時三十分から午後四時までと延長されたこともあり、新しい仲間が増えることはスムーズな図書館運営に力強い支援となっています。

今後とも随時、募集していきますので興味のある方はふきのとう文庫までお問い合わせください。



—— 布の本テキスト・材料セット価格表 ——

材料セットには作り方説明書を同封しています。

テキスト No	布の絵本	テキスト の 価 格	材料セッ トの価格	テキスト No	布の絵本	テキスト の 価 格	材料セッ トの価格	テキスト No	布の絵本	テキスト の 価 格	材料セッ トの価格
11	かくれんぼだあれ	500円	販売終了	16	まる	500円	3300円		どんぐりころころ	なし	4340円
12	MY BOOK	500円	3300円		むし		2200円		おむすびころりん	なし	5540円
	このいろなあに		3830円	17	ちいさいおおきい	500円	3000円		どうぶつとなかよし	なし	1600円
13	のりもの	500円	1600円		さかな		1700円		おいしいね！	なし	1600円
	だれのうち		3300円		新ドレミのうた	なし	5000円		おはな	なし	1600円
14	Greeting	500円	3000円		ちえあそび	なし	4570円		おやつはなあに？	なし	1600円
	おやつ		1700円		わっ	なし	1700円		のりたいな	なし	1600円
15	おかあさん	500円	3000円		みにくいあひるのこ	なし	5860円		うみのともだち	なし	1600円
	どうぶつ		1800円	遊具	ジャンケンサイコロ	なし	600円		とりのなかま	なし	1600円
									どうぶつだいすき	なし	1600円
									とり	なし	1600円

2019年夏ごろより、材料等の高とうによる材料セット価格を改定いたします。



布の遊具製作講習会

二月七日に布の遊具製作の講習会が開かれました。旭川短期大学十七名と札幌国際大学八名の学生と先生二名が参加し行われました。三時間で「ジャンケンサイコロ」を製作しました。二個組なので一個を製作して残りは自宅に持ち帰ってからの製作になりました。出来上がったサイコロは、実習に使われるそうです。布ボランティア・さくらグループの七名が指導し、細かく教えてもらいながら真剣に縫っていました。

あとがき

平成最後の文庫だよりです。次号には新しい元号が刷られます。文庫だよりは昭和四十七年に手書きの第一号が発行されてから、ついに三つ目の元号が加わることとなります。文庫自体の活動が社会の変わり様で変化していく中、文庫だよりの内容もそれに即しています。ここ数年は毎号、同じような内容だなど思われるかもしれませんが、それは大きな変化がないからであり、それをよしとしているところもあります。

基本的に変わらない部分を踏襲していく一方、ふきのとう文庫の持つ役割を、新時代にどう適応していくのかも考えていかなければなりません。それを報告できる文庫だよりとしていきたいものです。

編集 公益財団法人ふきのとう文庫
代表理事 高倉 嗣 昌

〒060-0006 札幌市中央区北 6 条西12丁目 8

☎ 011-222-4839 FAX 011-222-4800

http://www.fukinotou.org

E-mail:fukinotoubunko@ceres.ocn.ne.jp

平成31年 3 月10日 発行

毎月10日発行一部100円（維持会費に含む）

昭和48年 1 月13日 第 3 種郵便物承認

HSK 通巻564号

発行人 北海道障害者団体定期刊行物協会

細 川 久美子

郵便振替 = 02720-3-2300 銀行口座 = 北洋銀行本店営業部普通預金 0035764 公益財団法人ふきのとう文庫

この機関誌は、「北海道共同募金会の配分」により刊行しています。

維持会員・寄付者のみなさん、ありがとうございました。